



世界に希望を生み出そう

会長 佐藤 友彦 幹事 櫻井 武志

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

佐藤 友彦

皆様、こんにちは。本日もお忙しい中、例会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。

本日のご挨拶は前回お話した通り、月間テーマに沿ってお話致します。今

月は『母子の健康』月間であります。現在、5歳未満で命を落とす子どもが、世界で毎年590万人いると推定されています。その原因は栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものばかりであります。地域で見れば、その多くはアジアやサハラ以南のアフリカとなっています。先に話した通り、満身に食事を取れ無いが為に栄養失調になったり、安心して飲める水の不足と劣悪な環境によって様々な感染症を患ったり、その後の医療サポートが十分でない為に本当に多くの尊い命が奪われています。また、これらの理由以外にあげられるのは母親が満身に教育を受けられていない事が原因となるケースも多数あります。確かによく考えてみれば満身に教育を受けていない中で母親となり子どもを出産してから育てるというプロセスを確りと行う教養が身につけていない状況ではそのようになりえると思います。ロータリークラブではこれらの問題を積極的に解決する為に『教育』『予防接種』『出産キット』『移動クリニック』等、ありとあらゆる方法で母子の健康を推進しています。詳しくはホームページをご覧くださいのでお時間の許す際に見て頂ければ幸いです。

本日の例会もよろしくお願ひ致します。ありがとうございました。

連絡事項

1.21 日の地区協議会に参加される方は、湯河原駅に 7 時 50 分集合・8 時出発です。バス代は 3000 円です。遅れないよう気を付けてください。

幹事報告 無し

スマイルボックス

深澤昌光君

深澤に代わりまして、ヒマラヤの国ネパールで活動しているNPO法人ヒマラヤの星たちの理事長である菅沼一夫さまに卓話をお願いしました。皆様のご協力をお願いします。

西山敦君・平間章弘君

20日(土)、21日(日)に鍛冶屋の五郎神社のお祭りがあります。

4月20日は湯河原クラブの創立記念日なので全員でスマイル。

出席報告

ゲスト 1名 ビジター 0名

会員 22名 欠席7名(免除者0名)

出席率 68.18%

前回の修正出席率 90.91%

前々回の修正出席率 81.82%

事前メイクアップ 1名

ゲスト 菅沼一夫様(NPO法人ヒマラヤの星たち 理事長)

卓話 深澤 昌光 君

NPO 法人ヒマラヤの星たち 理事長 菅沼 一夫 様

皆様こんにちは。今回は「NPO 法人ヒマラヤの星たち」理事長:菅沼一夫氏をお招きし、同法人のネパールにおける活動をご紹介いただきます。

本題に入る前に、本日の会長挨拶にて佐藤会長が母子保健の重要性にふれたことに関し、理事長よりネパールの母子保健について、乳幼児死亡率ならびに母体の安全が 50 年前から大幅に改善されてはいるものの、農村部においてはいま

だに厳しい状況にある旨教えていただきました。それでは菅沼理事長、よろしく願いいたします。

・NPO 法人ヒマラヤの里たち

「NPO 法人ヒマラヤの里たち」は、ネパールの子どもを対象とした、無医村の学校を中心に活動している団体です。具体的には ①眼の健康のケアと衛生施設(トイレ、洗面所等)の整備 ②就学困難児童の支援 ③障害をもつ子どもの自立支援 ④自然災害から身を守る啓発と防災事業 をテーマとしています。

・プロジェクトの現場から

プロジェクトの現場ではこんな話がやり取りされています。
NPO スタッフ「いつからこの子の眼がおかしかったのですか？」
母親「もう 4-5 年になるかな」
NPO「病院に連れて行けばよかったのに」
母親「そんなに悪いとは思わなかったし、病院が遠いのでバス代がないんだよ」
NPO「このままでは失明しますよ、都会の病院で治療しましょう」
母親「病院に行くと眼球を取られてしまわないだろうか？行かせたくない」

黒板がはっきり見えないために成績がよくない子どもの近視に気が付かない先生もいます。眼の障害の原因は妊娠時の過重労働、飲酒・喫煙、乳幼児期の栄養や衛生状況などの指摘があります。生活習慣や衛生施設の改善が必要です。

これらの子どもを首都カトマンズの病院まで連れて行き、精密検査をして治療します。遠くの子どもは徒歩とバスを乗り継いで 3 日もかかります。土砂崩れでバスが運休したために、次のバスの出発地まで一日子どもを背負って歩いた母親もいました。病院では小児白内障や斜視、眼球摘出などの手術をします。眼鏡をかけて視野が開けて喜ぶ子どもがいます。眼の障害は幼少期に治す必要があるのです。

・ネパールの現状

ネパールは後発開発途上国です。世界銀行の貧困指標である一日当たり 2.15 ドル以下で暮らす人が人口の 20% (約 600 万人)を占めます(絶対貧困層と呼びます)。人間として生存するために最低限必要とされる食糧と食糧以外のもの

が購入できるだけの所得または支出水準に達していない状態をいいます。

ネパールの義務教育は 8 年間です。しかしできない子供がいるのです。多くは貧しさゆえです。家庭が小作農であったり、親がいなかったり、ダリット(最低カースト)の子どもたちです。昨年調査した 2 つの学校にはそれぞれ 4 人と 3 人が落ちこぼれの危機にありました。校長先生に聞くと、制服、靴、文房具や給食の費用の一人あたり年間に 1 万円程度あれば通学が継続できるとのことでした。一校で 5 万円程度が必要です。足長おじさん奨学基金を募集しています。基金にはドナー(支援者)の名を冠します。また、これによって児童労働や人身売買も減らすことが期待されます。

障害をもつ子どもの支援も見過ごすことができない重要なテーマです。ヒンズー教の輪廻思想の影響なのでしょうが、障害者を家の外に出さない恥の意識が残っています。山国特有の地形は、障害者にとって日常の行動を困難にしています。就労人口の 60 %が農業に従事しているように、産業の展開が乏しい経済において、障害者の就業機会が著しく限られます。障害者支援の法律はあるのですが、政策・行政レベルで十分な支援策が実行されていません。私たちは 5 年後を目途に障害者の教育と職業訓練を兼ねた施設を建設することを目指しています。自然豊かな農村で、入居者の手によって生活や活動が運営される「自労自治」の精神に基づいて、「まなびとしごと」に喜びを見出しながら明日に飛翔する「ヒマラヤの星たち」をはぐくみたいと考えています。

・ネパールの国土と事業のこれから

ネパールの国土は、最低標高 70m から世界一の 8848m のエベレスト山まで 200 km の間に駆け上がる急峻な地形です。今もヒマラヤ山脈は造山運動を続けています。自然災害の危険は私たち日本と変わらず多発しています。これまでに多くの学校で防災教育を行ってきましたが、これからは防災啓蒙事業に加えて、自然災害を予防する治山・砂防事業にも着手します。

ここで紹介した事業は、多くの人々のご支援によって成り立っています。我が国の個人や企業の資金援助とネパールの各分野の専門家やボランティアです。湯河原口一タリークラブの会員の皆様のご参加とご支援をお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。